



学校法人  
鎌倉女子大学

## 和顔愛語

幼稚部の園児から大学生まで鎌倉女子大学に通う誰もが、キャンパスに足を踏み入れる時は、校門で立ち止り、一礼をする慣わしになっていること、教室内でも挨拶の礼をもって授業を始め、また終えることを知っています。社会のあちこちから、「とっても立派な習慣ですね」と感心もして頂きます。中には、「世の中が荒れ放題の現代においては殊の外尊いことですね」といって下さる来訪者もいます。

躰しつけとは、「身を美しく」と書きますが、毎日毎日のこのような行いは、社会に出てからも、卒業生の自然な振る舞いとして、きっと周囲の方々から喜ばれていくことでしょう。アリストテレスは、「習慣は第二の天性である」といいました。日々善い行いをし、それが習慣づいていくと、やがて血となり肉となり、自ずとその人自身の生来の人柄そのものにさなっていくものです。何時も何か面白くなく、不平不満ばかりを心に抱いている人は、自分では気づかない裡うちに、いつしかそのような卑しい顔つきの人格になっているものです。

ところで、仏教では、わが身を捨てて、人に施しをすることを布施といいますが、何も自分を捨てるなどという大仰なことをすることもなく、また取り立てて物やお金を必要とするわけでもない、誰にも何時でも出来る布施に「和顔愛語」があるといわれています。人一倍子ども好きで、それでいて能書家でもあった良寛さまは、特にこの和顔愛語を心掛けた方といわれます。人に和やかな笑顔を向けること、心のこもった言葉を語り掛けることは、少しの配慮と努力で出来ることです。それがいつしか自然に出来るようになっていけば、なおのことよい。

キャンパスで出会ったら、廊下ですれ違ったら、知らない者同士でも、年長の者からでもなく年少の者からでもなく、気づいた方から、「おはようございます」、「こんにちは」という挨拶を笑顔で交わし合いたいものです。それだけで、お互いがどれほど明るく感じよく、またその場がどれほど打ち解けた和やかな雰囲気に包まれることでしょう。

思うに、日本人は、欧米人に比べると、このさり気ない挨拶がどうも苦手のようなのです。イギリスでもフランスでもドイツでもどこでもいい、ヨーロッパのどんなレストランでも、隣り合わせのテーブルに座った者同士が、男同士でも女同士でも男性と女性でもどちらからともなく、お互いに挨拶の言葉と共に、ニコッと笑顔を交し合う軽い慣習を見掛けるものです。このことは、エレベーターに乗る時にも、変わりありません。だからといって、そこからベタベタとした不要な会話がそれ以上始まるわけではない。

日本では、あまりお目に掛かれない風景です。レストランで隣り合わせのテーブルに座った者同士は、挨拶をすることはおろか、一瞬目でも合うや、「お前、どこから来た」ともいいたげな風情で、ツンと顔を背けあうのが事の顛末といったところです。

若い頃、初めてヨーロッパに行った時、印象が深かったものですから、どうして彼らはそうするのだろう、時折美しい女性にでもされてみようものなら、よせばいいのに無様な自分をしげしげと振り返って、「俺でも結構いけているのかしらん」と、馬鹿な錯覚に囚われるようなことがあったわけではなかったとしても、私たちの慣習とは異なるそれにしばし不思議な思いがしたことは、事実でした。

それには、訳があるのです。彼らは、長年にわたって深刻な民族と民族の対立と闘争を繰り返し、国境線は勿論のこと国の形も人々の暮らしも大きく変わってきただけに、無論それに伴う個人と個人の対立・闘争もあったことでしょう、ですからトランスの精神に到達し、平和が実現した今日にあっても、「私はあなたに対して敵意を抱いているわけではないのですよ」という意志表示が、このさり気ない挨拶の言葉と笑顔となっているのです。

これに対して、日本人は、多少誇張していえば、四国島国に閉じこもり、夷狄から攻められたこともあまりなく、ほぼ同じ言語・同じ慣習・同じ民族で暮らし合ってきたものですから、むしろ同じ日本人同士で殊更挨拶等交わし合わなくてもいいではないか、逆に言葉等なくとも解り合っているのが日本人ではないかと考えてきたためかもしれません。言挙げしないことをもって美風とするといった慣習からはなかなか抜け切らないものがあるようで、それが何気ない私たちのこうした振る舞い方にも表れているのでしょう。しかし、それが何時しか他人に対して挨拶も言葉も交わさない、逆に刺々しい社会心理を作ってきたとしたなら、それは、少し淋しい。

殺伐とした今の世相のことですから、特に女子学生の無意味な愛想は誤解の元で、思わぬ災厄に巻き込まれては、と老婆心も働き、最早今日どこにおいても、とは残念ながら勧められなくなってしまいましたが、少なくともこのキャンパスのあちこちでは清々しい和顔愛語が実践されることを願っています。

[>前のページへ戻る](#)